

平成30年度第2回鶴岡市廃棄物減量等推進審議会（会議概要）

平成31年3月11日（月）
鶴岡市総合保健福祉センター
にこふる3階大会議室

○傍聴者2名

（午後1時55分）

1. 開会

2. 会長挨拶

皆さんこんにちは。日ごろ委員の皆さまからは鶴岡市のごみ減量について様々な場で頑張っていたいただいているところですが、本日は新年度の鶴岡市一般廃棄物処理実施計画についてご協議いただきます。

最近、新聞等を賑わしている海ごみ、漂着ごみ、マイクロプラスチックごみに関連して、環境省はプラスチックごみを25パーセント削減するという具体的な目標値を定め、国連でも作業部会を設けるなど、プラスチックごみを減らそうという動きが本化してきました。

ごみ減量の基本はやはり元を絶つことです。プラスチックごみに限らず、すべてのごみの問題として、ごみを作らない、売らない、買わない、という社会を作っていかなければなりません。その一つの方策として、3R法、循環型社会形成推進法ができ、リサイクルするものはリサイクルする、再使用するものは再使用する、そしてごみを減量するという方向性で今まできているわけです。

この審議会では鶴岡市民に対するごみ減量の啓発について議論していただいております。ごみゼロ社会を実現するため、皆さんから知恵を出していただきながら、ごみ減量を図っていきたいと考えますので、よろしく願いいたします。

委員17名のうち9名出席。鶴岡市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第2項（委員の半数以上の出席により成立）の規定により会議開催が成立。

（午後2時2分）

3. 協議

審議会条例第6条第1項により、会議の議長を会長とする。

平成31年度鶴岡市一般廃棄物処理実施計画（案）について
事務局説明
別紙、資料のとおり

質 疑

(委員) ペットボトルの回収ですが、以前は本体とキャップを分けて回収し、キャップだけ集めてワクチン費用に充てることをしていましたが、今はどのようになっているのでしょうか。

(事務局) 市の家庭ごみの収集では、ペットボトルの本体とキャップは素材が違うので、分けていただいています。また、ワクチンの購入費用に充てるため、学校関係あるいは一般企業で独自にペットボトルのキャップを集めているというお話は聞いております。そのような情報については、出来るだけ共有できるように市のホームページで紹介するとかの方策を検討したいと思います。

(委員) ごみの減量等計画数値ですが、30年度のリサイクル率計画値が14.8%で見込みが11.9%、31年度の計画が12.1%と30年度の計画より下がっていますが、その理由について伺いたい。

次に、事業系一般廃棄物の市ごみ焼却施設への搬入の際のごみ袋ですが、市で新たに事業系のごみ袋を作るのかどうか伺いたい。

次に、ごみ発生抑制の具体的な取組内容ですが、現在の基本計画が平成28年度から始まり、平成32年度に中間見直しをするということですが、その評価として、例えば、事業系ごみ対策として社会的責任としての環境保全意識の高揚として「環境にやさしい店」と連携してとありますが、実際に「環境にやさしい店」というのはあるのかないのか。それを市民にどのようにお知らせしているのか、その取り組みについてどうなのかというのが私には見えない。そのPCDAというか一年間の評価についてはどうなのか伺いたい。

最終処分場の概要の年度末の残余容量見込などの数値について、もう少し説明をお願いしたい。

(事務局) 平成30年度実施計画における計画値は、基本計画で設定した平成37年度における目標値である15.4%に至る推移を勘案し設定しました。しかし、平成30年度実績が11.9%と見込まれるなど現状と大きくかけ離れていることから、平成37年度の目標値は掲げつつ、年度毎の実施計画では過年度実績値を基本にした計画値を設定し、その達成に向けて各年度の施策を遂行していくという形に変えました。

(委員) 平成37年度目標値には根拠があるわけなので、平成30年度の計画が14.8%で実績見込みが11.9%で3%近くの差があるが、もう少し高い目標に上げるために何をするのかを打ち出していないといけないのではないかと。かい離しているということだが、目標値を立てたわけなので、そこはきちっと説明と方法を考えていかなければならないと思います。

(事務局) この場で計画値をどうするという事申し上げられませんが、委員のご意見を

受けまして、数値を向上のための施策については、さらに何が出来るのかを検討し実行していきたいと考えます。

二点目のご質問について、事業系のごみ袋については市が作成するのではなく、市販の物を使っていただきます。なお、なるべくごみ袋は使わないようお願いをしていきます。

次に「環境にやさしい店」の登録につきましては、環境課が主管しているものです。今でこそノーレジ袋、簡易包装などの取り組みが定着してきましたが、当初はこの登録店との連携で実施してきました。現在も市のホームページに登録店を掲載し、活動を紹介しております。

最終処分場についてですが、埋め立て可能な量が年々少なくなってきており、31年度の計画埋立容量が8,708立方メートル、平成31年度末の残余容量の見込みが2,612立方メートルということで、残り1年分に満たない、平成32年度中に埋立が満了してしまうという状況です。残りは民間の処分場への委託を考えているところです。

(委員) 委託する量は相当なものですが、ずっと民間へ委託するということですか。

(事務局) 新しい最終処分場が稼働するまでとなります。

(委員) サンドイッチ方式というのはどういうものなのか教えてください。

(事務局) 現在稼働している岡山一般廃棄物最終処分場は全体で225,000立方メートルの容量があります。サンドイッチ方式とは、ある程度焼却灰等を埋めた上に土を被せて、焼却灰の飛散や臭いが出ないようにそれを繰り返すというものです。平成31年度末には残容量が2,612立方メートルとなり、平成32年度中に埋立容量が無くなってしまおうという予測をしております。なお、埋立後に転圧をしたり沈みこんだりしますので、この数値は変動します。ただ、現在整備中の大荒地区の最終処分場の供用開始が平成33年10月から平成34年3月ごろまでの見込みとしていることから、岡山の処分場が満杯になってから、新しい処分場が稼働するまでの間、民間の最終処分場に処理を委託することとしています。

(委員) 先ほど会長のご挨拶にもありましたが、海洋漂流ごみは大きな問題だと思います。先日テレビではクジラの胃がプラスチックごみでいっぱいだったという痛ましいニュースを報じていました。また中国では資源物としてのプラスチックごみの輸入を禁止するという報道もありました。これから自国内でどのように環境問題に取り組んでいくのか、私たち市民としても最大限努力していきたいと思えます。

ただ、ごみ減量の取組については、市広報などを通して啓発を行っているようですが、なかなか浸透していない状況かとも思えます。今一度原点に立ち返って、市民と行政が取り組んでもらいたい。地域では様々な集まりが多くありますので、ぜひそのような場を使って、市が取り組んでいるごみ減量対策などを説明していただ

きたいと思います。

また、ごみステーションのカラス被害を耳にしますが、その対応はどちらに連絡すればよろしいのでしょうか。

(事務局) 市民へのごみ減量についての説明、啓発として、職員が直接各自治会、町内会などへ出向く、ごみ分別の出前講座を行っております。開催日時等の要望に極力沿う形で対応しておりますので、ぜひご活用いただきたいと思います。

ごみステーションのカラス対策については、廃棄物対策課に連絡いただければ、防鳥ネットを無償提供しております。

(委員) 先ほど質問がありましたが、リサイクル率というのは、分母がごみの排出量全体になっているわけでしょうか。自分が出すごみを考えても、プラマークの付いたものは桃色袋、ペットボトルは黄色袋にすべて入れほとんどリサイクルに回っているので、リサイクル率は100%じゃないかなと思います。ただ、ビン・缶類の重いものと一緒になったごみ総量全体からすると、リサイクル率は低くなってしまいます。そのあたりの統計のとり方、例えばごみの種類ごとのリサイクルの状況が見えるようにした方がよいのではないかと。ごみ総量分のリサイクルされた量の数値しかないので、議論が難しくなってしまうのかなと思っています。

(事務局) リサイクル率、資源化率は、ごみの総排出量と資源回収量を足したものを分母とし、資源回収量とごみ処理後に資源化された量を足したものを分子として算出します。ごみの種類別のリサイクル率については、細分化できる範囲で、今後、資料としてお示ししたいと思います。

(委員) さきほどプラスチックごみ、海洋ごみの話題がありましたが、これはもちろん私たちが排出するものはあるわけですが、新聞などの報道では海外から漂着するごみも相当あるようですが、その点はどのようなのでしょうか。

(委員) 現実的にはプラスチックごみの大半は内陸系、要するに陸ごみが川ごみになって海ごみになる。庄内の沿岸では1割から1割5分が海外からのごみで、残り85%は国内のごみということになると思われます。新聞などでは、外国から漂着した危険物とか流木がどうのこうのと報道されることが多かったのですが、今から10年遡れば、海ごみはみんな海外からきているように思われていた時代がありました。しかし、最上川や赤川の調査結果からみても、家庭から出るごみが7割から8割との状況で、日本に散在しているプラスチックごみの大半は家庭から出ていると捉えて構わないと思います。

プラスチック製品でパッと変わったのはストローですね。プラスチック製から紙製に変えるところがでてきました。今後、そのような流れに代わっていくと思われます。

質疑終了

(午後 3 時 1 0 分)

4. その他

施設整備状況について

資料に基づき事務局説明 (資料別添のとおり)

質疑なし

(午後 3 時 2 1 分)

5. 閉会